

新しい展覧会情報をお知らせします

民俗を写す

—ハレとケのあいだ—

Folklore Through the Lens:
Between Ritual and Routine

2025年1月24日(金)～3月30日(日)



土門拳《白太鼓踊》宮崎県西都市 1939年

「ハレ」と「ケ」—日常と非日常が交わる民俗の世界。本展では、土門拳が捉えた日本人の暮らし（ケ）と、宮崎・高千穂の神楽をはじめとする祭りや儀礼（ハレ）の作品を展示します。さらに、第2回土門拳賞を受賞した写真家/民俗学者・内藤正敏による、東北地方の民俗を撮影した作品『出羽三山と修験』と、土門拳が撮影した数少ない出羽三山に関する作品をあわせて紹介します。信仰、祭礼、修行—そこに垣間見える人々の真摯な営みは、写真を通じて「ハレとケ」の間に広がる世界を静かに問いかけます。

主な展示作品：

土門拳：風景/日本の美/伝統のかたち/宮崎シリーズ/お水取り/酒田点描/土門拳と山形/ドキュメント日本
内藤正敏：出羽三山と修験

内藤正敏（ないとう まさとし）

1938年東京生まれ。写真家、民俗学者。元・東北芸術工科大学大学院教授。早稲田大学理工学部応用化学専攻を卒業後、化学反応による偶然の造形を写した実験写真で注目を集めた。25歳のとき山形県にある湯殿山で即身仏と出会い、強い衝撃を受けて写真家としての方向性が大きく変化。1966年には羽黒山伏の秋峰修行に参加し、独自の作風を確立するとともに、即身仏信仰の背景となる東北地方の民間信仰の研究を開始した。代表作に『婆 東北の民間信仰』（1979年）、『日本の聖域9 出羽三山と修験』（1982年）、『遠野物語』（1983年）、『東京 都市の闇を幻視する』（1985年）、「神々の異界—修験道・マンダラ宇宙・生命の思想—」（個展/2013年）などがあり、土門拳賞や日本写真協会年度賞などを受賞。本展では、第2回土門拳賞を受賞した『出羽三山と修験』より26点を紹介します。



左：内藤正敏 《びんずる尊像（海向寺）》 1982年 / 中：内藤正敏 《即身仏・鉄龍海上人（南岳寺）》 1965年

右：内藤正敏 《松例祭 にしのすし》 1980-1982年

同時開催

土門拳を未来へ —写真アーカイブの試み—

Ken Domon for the Future:
A Photographic Archive Initiative



土門拳《姉と妹》 1950年 ヴィンテージ・プリントより

日本初の写真専門美術館として設立された土門拳記念館。開館40年を超えた現在、展示用プリントに加え、「写真原板」と呼ばれる約13万5千点のフィルムやガラス乾板などを保存しています。これらは非常にデリケートな媒体であり、フィルムに含まれる酢酸成分が化学変化を起こす「ビネガーシンドローム」をはじめとする劣化が進むと、複製ができなくなる可能性があります。貴重な視覚遺産を後世に継承していくために欠かせない写真原板の長期保存と利活用は、世界的にもますます重要な課題となっているといえるでしょう。本展では、土門拳の作品を未来へ繋ぐため、当館におけるこれまでの保存活動やアーカイブ構築の試みを紹介します。また、展示機会の少ないヴィンテージ・プリントも公開します。

主な展示作品・みどころ：

ヴィンテージ・プリント/保存用密着プリント/土門拳が写った写真

会期中のイベント *入館料のみで参加できます

学芸員によるほぼ月イチギャラリートーク

2/15(土) 14:00~14:30 「土門拳を未来へ —写真アーカイブの試み—」 要予約

3/15(土) 14:00~14:30 「民俗を写す —ハレとケのあいだ—」 要予約

朗読会 「『宝の日』土門拳さんの記念館で吉野弘さんの詩をよむ」(出演:酒田詩の朗読会)

2/22(土) 14:00~15:00 要予約

開館時間:9:00~17:00(入館は16:30まで) / 月曜休館(祝日の場合は開館し、翌火曜日に休館)

入館料:一般800円 / 高校生400円 / 中学生以下無料

〒998-0055 山形県酒田市飯森山2-13(飯森山公園内)

WEB <http://www.domonken-kinenkan.jp/>

TEL 0234-31-0028

MAIL kendomon.mop.2@gmail.com (担当:王)

画像提供や詳細情報に関するお問い合わせは、上記までご連絡ください。